

[道 徳]

多様性を理解し、豊かに生きる視点の醸成

－「多様な性のあり方」をテーマにした授業の実践から－

重野 典子*

はじめに

混沌とした社会情勢と移り変わりの激しい多様な価値観の中を生きる生徒たちには、さまざまに価値を見いだして、しなやかにたくましく、未来を拓く力が必要とされる。

生徒は、これからの社会の中でたくさんの人とかかわり、さまざまな出来事と遭遇し、良きことも、その時はそうでないことにも出会い、苦しむこともある。出会いは様々である。人は人によって救われるのならば、多くの人とかかわる力や人を助ける力を備えることは無駄ではない。多様な価値観と出会い、豊かにかかわって生きることはいずれ自分を救い、誇りをもって生きる力になると考えている。

1 主題と生徒について

先のオリンピック、パラリンピックにおいても「多様性と調和」がうたわれており、「多様な性」もその一つである。本実践で取り上げる性的マイノリティ（以下LGBTQ）などの性の多様性に関わる問題は、「社会や地域の無理解や偏見等の社会的要因によって自殺念慮をかかえることもある¹⁾」といわれる。

対象生徒は高校生2年生の年代である。前期課程入学時から、当校において目の前で成長してきた生徒たちである。様々な悩みを抱えながら成長してきた生徒もいれば、途中で進路を変更する仲間もいた。年齢相応に現実を見つめ、不安や迷いをもちながらも自己実現を目指す生徒たちである。「性の多様性」についてインターネットやテレビなどからの知識はあるが、LGBTQ等の用語についての理解は異なり、実際に自分の性について疑問をもち、悩みながら前に進めない生徒もいる。

LGBTQは社会全体の10%存在するという²⁾。この集団にも複数いることを前提にして「多様な性」をテーマに取り上げる。多様な価値観にふれ、他の生き方を理解し、尊重することは自分を大切にすることへの気付きにつながると考えている。

2 目的と実践の概要について

(1) 目的

「多様な性」を扱った授業の実践を通して、生徒が学び合い、深め合う姿（学び合いのプロセス）を明らかにし、本学習の意味と生徒の学びを検証する。

(2) 方法

① 「性」に関する意識調査の実施

先行実践を参考にしながらWeb上で回答する調査を授業前に実施する。授業後にも同じ調査を行い、比較することで、授業の効果を確認する。

② 授業の実践

保健・人権教育の側面からの視点も入れながら、生き方として多角的に考えることができる授業を構想する。その際、グループ活動や話し合いなど、それぞれに違った見方、考え方を共有しながら、一人一人の生徒が自分のこととして考えを深められる場を設定する。

* 柏崎翔洋中等教育学校

(3) 授業の概要

ねらい：性的マイノリティ（以下LGBTQ）について考えることを通して、自分とは異なる考えや意見があることに気づき、多様性や自分との違いを尊重してよりよく生きようとする意欲をもつ。

< 1 / 2 時間目 >

	学習活動	発問の意図や留意点
導入	<p>○提示したスライドから想像する。</p> <p>◇絵に示す性別は？隣の人と話し合いながら考えよう。</p> <p>○最後に男性女性の身体、服装が混合されている「ぼくはマコトです。」の絵を出す。</p> <p>○アンケートの結果を抜粋して提示する。</p>	<p>・一般的に、からだの他に持ち物や職業、服装で性別を判断していることに気付く。</p>
展開1	<p>○動画「多様な性って何だろう」を視聴する。</p> <p>◇今の動画の感想をワークシートにまとめよう。(5分～7分)</p>	<p>・特定非営利活動法人法人ReBitが配信している動画⁴⁾ 15分</p>
展開2	<p>○アンケートを振り返る。</p> <p>○以下について説明する。</p> <p>LGBTQ ⇒ 性的マイノリティの一部</p> <p>SOGI(E) ⇒ 性的指向・性自認のことで一人一人の性のあり方を指すもの³⁾。</p>	<p>・自分たちの意識を事前のアンケートから確認する。</p> <p>・性のあり方はグラデーションのように一人一人が異なっていることを示す。</p> <p>・性は平等であり一人一人が（自分も）当事者といえることに気付く。</p>
まとめ	<p>◇今日の授業で気付いたこと、新たに知ったこと、考えたことを自由に書こう。</p>	<p>・ワークシートに記述する。</p> <p>・次回に続くことを告げる。</p>

< 2 / 2 時間目 >

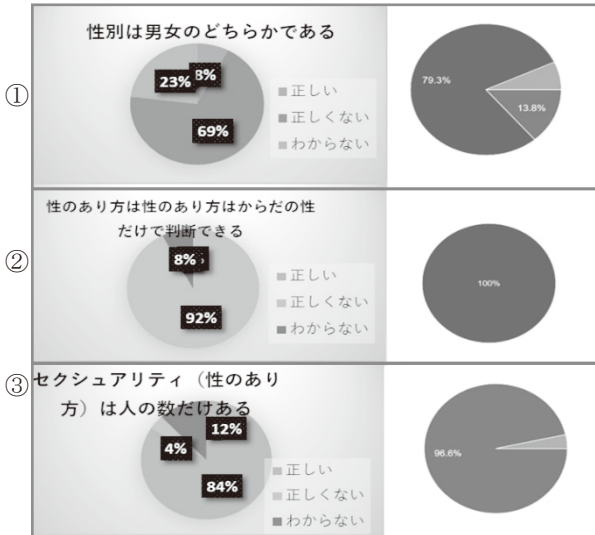
	学習内容	発問の意図や留意点
導入	<p>○スライドを使って前の時間の復習をする。</p>	<p>・前回の授業と生徒の反応を紹介しながら、用語が混同しないように簡単に確認する程度にする。</p>
展開1	<p>○日常耳にしたり自分が口にしたりする言葉について小グループで考える。</p> <p>◇言葉のカードを見て信号機に見立てた赤色、黄色、青色で表示しよう。</p>	<p>・自分が発する言葉についてその言葉に戸惑ったり、傷ついたりすることもあることを互いに気づき合う。</p> <p>・多くが赤信号、または黄色信号であることに気付く。</p>
展開2	<p>○LGBTQに関するビデオ⁵⁾を視聴して話し合う。</p> <p>◇ユウスケが自分のことを打ち明けたのはなぜか。</p> <p>◇どうしてユウスケは「誰にも言わないで」と言ったか。</p> <p>◇ジュンゴは何に葛藤したのか、今後どんなふう生きていくだろう。</p>	<p>・◇を話題にしてワークシートに記入しながら交流する。</p>
終末	<p>◇誰もが自分らしく、もっと快適に生きるためにはどんなことを考えたり、行動したりしたら良いだろう。</p> <p>○グループでシェアし、話し合っただけ考えたことを発表する。</p>	<p>・社会で共によりよく生きるために、自分たちが考えたり行動したりすることは何か考えさせる。</p> <p>*多様な考えを共有する。</p>

3 実践の結果と考察

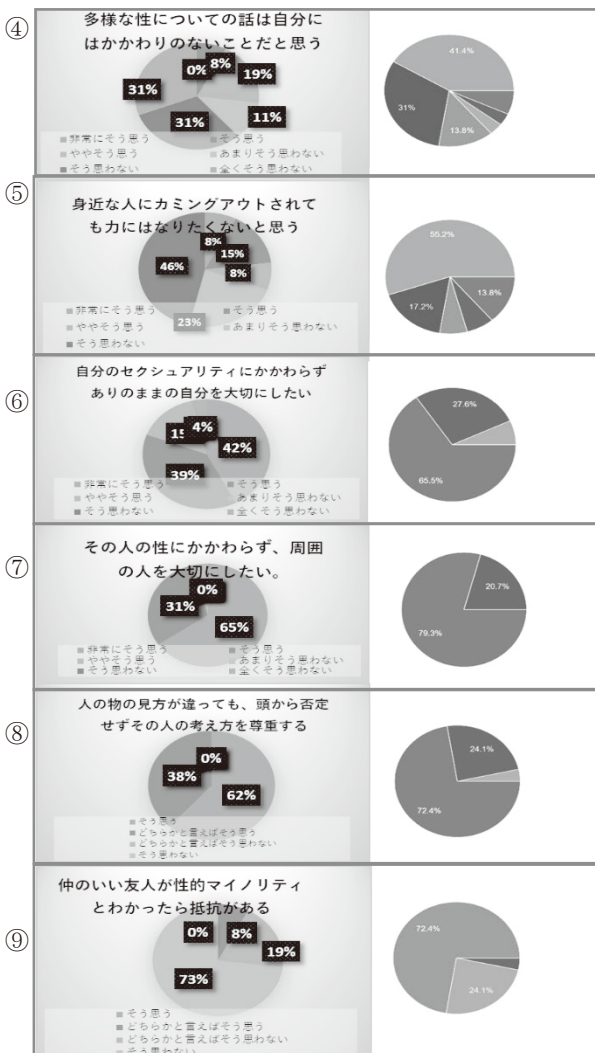
(1) 性に関する意識調査

多様な性に関するアンケート⁶⁾

<主に知識に関する質問>



<主に生き方に関する質問>



授業前、授業後2週間後にアンケートを実施

左図 上から順に *授業前 ⇒ 授業後

- ① 「性別は男女のどちらかである」
正しくない 69% ⇒ 79%
 - ② 「性のあり方は体の性だけで判断できる」
正しくない 92% ⇒ 100%
 - ③ 「セクシュアリティ (性のあり方) は人の数だけある」
正しい 84% ⇒ 97%
- 上記の数字は回答の一部である。事前の結果は1時間目の授業の中で紹介した。
- その後視聴した動画によって様々な性があることを知るとともに、当事者の言葉、家族の言葉、友人の言葉を聞くことで、以下のように自分に引き寄せて考えることができたと思われる。
- ④ 多様な性について自分にはかかわりのないことだと思う。
全くそう思わない+そう思わない
62% ⇒ 72%
 - ⑤ 身近な人にカミングアウトされても力にはなりたくないと思う。
非常にそう思う+そう思う
23% ⇒ 10%
 - 「知識がないから差別や偏見につながる」という生徒の言葉も紹介した。
 - ⑥ 自分のセクシュアリティにかかわらずありのままの自分を大切にしたい。
非常にそう思う 42% ⇒ 66%
 - ⑦ その人の性にかかわらず、周囲の人を大切にしたい。
非常にそう思う 65% ⇒ 79%
 - ⑧ 人の物の見方が違ってても、頭から否定せずその人の考え方を尊重する。
そう思う 62% ⇒ 72%
 - ⑨ 仲のいい友達が性的マイノリティとわかったら抵抗がある。
そう思わない+どちらかといえばそう思わない
92% ⇒ 97%
- * 仲のいい友達・・・について、自分はどうしたらいいのか・・・実際の場面を想像し戸惑いがあっただろうか。授業前にはそう思わないと答えていた生徒も、数名がどちらかと言えばそう思わないと答えている。

(2) グループによる話し合いの様子 (生徒の発言の一部を抜粋)

以下は、「誰もが自分らしく、もっと快適に生きるためにはどんなことを考えたり、行動したりしたら良いだろう。これまでのビデオ視聴や、授業の感想も含めて、グループで話し合ってみよう。」の問いに対する話し合いで、生徒から出た発言の一部である。

* ____下線は、生徒が自己を見つめ直したり、他の生き方を理解し尊重したりしていると筆者が特に感じた発言である。

グループ1

- 初日のビデオに出ていた人、みんな笑顔だった！
- 十分に受け入れられているのかな。自分とは違う生き方だって思うだろうけど受け入れている。
- カミングアウトは勇気があるよね。とくに家族には、家族は優しかった。
- 周りの大切さがわかる。
- マイノリティっていうけど、多い方、少ない方ってことでもないのでは？
- さっきのビデオで気づいたけど、座っている二人の距離が微妙に違っていた。最後に隣り合って座るときは距離があったよね。
- あれは嫌いとか嫌っていう距離の取り方じゃなくてユウスケからカミングアウトされて、戸惑って、自分で気持ちの整理をして「これから知っていくよ」っていうか・・・そんな感じ。
- そんな感じ。ジュンゴは最初どう反応していいかわからない。でもユウスケがつかかった、理解されないかもしれないけど誰かに言っておきたかった気持ちをジュンゴがわかったんだと思う。自分とは違うけど、それを知ろうとしていた。

グループ2

- 今回思った以上に自分の考えを改めようと思った。
- 多様性を受け入れることが多くなっている。ビデオでそれが普通になっているのがよいと思った。
- 私はマイノリティの人たちに気を遣ってしまいそう。性のことで相手との関係が悪くなることも怖い。
- でも、逆に知ることで仲が深まったこともあると言っているのを聞いて、やっぱり理解してくれる人が増えるといいと思う。
- 違いが悪いのではなくて違いが新しいってことではないかと思った。

グループ3

- 性別は男女じゃなくて、性別よりもその人らしさを大事にすることが重要なんだろうなと思った。
- 今までも私はあまり気にしなかったかもしれない。だって死ぬときはみんな同じでしょう？その人にかかわった人は男性が死んだとか女性が死んだじゃなくてだれだれが、どんな人が亡くなったって言うと思う。
- 自分はそもそも人が好きじゃなくて・・・
- 性別に着目して話すんじゃなくて様々な人のあり方とかその人そのものを受け入れる考え方、リスペクトするっていうか・・・いろいろな考えがあっていいし、それがその人の個性や良さなんだと思えたらもっといい。
- みんながそうになっていけばいいと思う。

グループ4

- 一人一人の個性とともに性のあり方があるってことですよね。
- カミングアウトをしなくてもみんなが自由に生きられたらいい。
- 人と違うって何が悪い？自分は自分で生きていく。
- ひとりじゃ生きていけない。
- カミングアウトに勇気のいらぬ本当の意味の多様性を理解する社会にしていくこと。
- 性だけのことでなくて、みんなが互いに支え合う社会。
- どっちかという型にはめなくていい。気付いたり、理解したりすることが大切。
- マイノリティは意外と普通のこと。
- たくさんの性のあり方は当たり前で、本人からのカミングアウトがなくても支え合って生きていける社会になっていくといい。
- 施設も、多目的トイレ、多目的風呂、共同トイレなど、この中にもいろいろな人がいることが前提で変えていく。

グループ5

- 「カミングアウトが人生を決めている」みたいなのはどうかと思った。誰もが自由に暮らしやすい社会になっていないのだと思った。
- カミングアウトは困っているからでしょう。
- カミングアウトされたらちゃんと受け入れることが大事なんだと思う。
- まずは一人一人が自分の存在を認めることが大事。

グループ6

- どんな人も尊重していくこと。そうしないと社会的にも世界に追いついていけないと思う。
- さっきの信号のカード、黄色や赤が多かった。相手を傷つけない言葉かけは誰に対してもある。傷つけないようにしようとするよりもリスペクトする。相手を傷つけてしまったら謝ればいいと思う。
- 違うからダメはないし、時にはNOということも大事。

(3) 授業を終えた生徒の感想（一部抜粋）

- ・最初に考えたのは友達のことでした。ジェンダーや性の知識が不十分だったことで深く傷つけたかも知れない。
- ・ビデオやクラスの人との意見交換の時間で、最初は「自分の周りにはいなさそうだし」とか「俺はこういう人とは関わってはいけないな」という考えが「そういう人も良いじゃん」とか「違う感性があって面白そうだな」というポジティブな考えに変わった。自分にとって良い時間になった。
- ・多様な性そのものについての知識が深まった。いろいろな人がいて、いろいろなものがある世界がよりよくなっていくためには、互いの違いを認めて助け合っていくことが大切だと思う。そのためにもたくさん知識があった方が無意識に人を傷つけることが少なくなると思う。少数派と言われている人たちも、多数派だと思っている人たちも、自分らしく楽しく生きていくために、多様性そのものをこれからも学んでいきたい。
- ・本格的に学習するのは初めてでした。「性自認を含めて個人を尊重する」ことが必要だと感じた。
- ・自分の考えを周りの人に伝えて、周りの人の考えも聞いたら、ビデオを見て感じたことがみんな違っていて、この場においても多様性を実感した。LGBTQなどについては前から知っていて、多様な性は当たり前だとわかっていましたが、みんながいろいろな考えをもっていて、さらに深まりました。
- ・身近な人がもしも自分のセクシュアリティについて悩んでいたり、私を信頼して打ち明けてくれたりしたときにはその人その人らしさ、ありのままを受け入れられるように、これからも性の多様性のことをいろいろ学んでいきたい。
- ・ビデオ学習に始まり、グループに分かれてその意見交換を行うことで様々なことに触れることができた。LGBTQについての知識をもっていなかった人が「そういう意味なんだ!」と興味をもち、学びを深めていく姿を見てとても嬉しかった。「昔カミングアウトをされたことがある」、という人もいて身近に性の多様性を感じられた良い機会だと思った。「授業を受けて終わり」でなく、これからの人生に活かされてこそその授業なので、忘れないようにして、みんなの胸の中にも残っていくことを願っている。
- ・性に対して多様なとらえ方やあり方があることが素敵だと思った。

(4) 成果と課題

① 成果

アンケートは、基礎的な用語の理解や、何によって情報を得ているか等も含め、24項目程度を設定した。授業前と授業後では知識の深まりが確認できた。また、生き方の質問や人権意識の側面に関する質問にも変化が見られる。アンケートの質問はReBit (2019)⁶⁾を参考にしているため、データの比較をしてみたところ、例えば自己肯定感につながる⑥の質問では、授業後は肯定的な回答が96%から100%に増加した。

ReBitのデータを見ると91%から95%で割合的には同じ4%の増加である。

② 課題

人権教育の教材は見つかっても、生徒の発達段階に応じた、適切な教材が見つけれなかった。

そのため、今回は、生徒の実態を考慮しながら、ビデオ教材を含めて先行実践で活用された資料や教材を参考にして、教材開発を行った。

③ 考察

本実践の成果として、1つ目は、自分の性に悩んでいる生徒を前に「性の多様性」をテーマにした授業ができたこと

である。筆者はこれまで周囲の生徒の成長を待ちながらもやや躊躇していたこともあった。さらに目の前の生徒が担任でない筆者の授業をどう受け入れるか、授業後も暫くは不安だったが数日後のアンケートや感想の中で先述のように、授業についてはほぼ全員が肯定的に捉えていたことが分かった。「学習してよかった」、「もっと学びたい」という生徒が多かったことが成果として挙がる。

2つ目は、生徒の交流（話し合い）が学習を深めていたことをあらためて認識した。「主体的・対話的で深い学び」の姿である。

答えが一つではない道徳的な課題に対して一人一人の生徒が自分自身の問題として捉え、向き合って「互いに考え、議論する道徳」が実現されたと考える。まず、生徒が自分たちの言葉で語り合う。ほとんど知識がなかった生徒たちも対話を重ねることが新たな知識となり、対話の中で自分の思いや考えを整理しながら学んでいった。1時間目の感想の中には、当初気になっていた生徒の他にも「自分もそうだから」と書いてくる生徒がいた。話し合いにおいて、自分と向き合いながら多面的・多角的に優しく語り合うことで、一人一人が当事者であることに気付くようになった。これらのことから、温かな時間の中で多様性を理解することは、生き方が豊かになることにつながることに気付いたと考える。

映像を見ている時間、ワークシートに思いをとどめる時間は、沈黙とシャープペンシルの音だけ。無音の自己内対話の具現である。

④ 今後の研究に向けて

アンケートの項目「多様な性について、中学生や高校生に伝えるべきだ」「LGBTQについて学ぶことは他の多様性について考えることにつながると思う」「多様な性について学ぶことは、必要である」でいずれも肯定的回答が100%に至ったことを踏まえて、今後は生徒の発達段階に応じた中学生の授業のために教材や内容を吟味し整理する。

これからも生徒たちが学びを自己の生き方にプラスして学び続けること、そして自分の周りの人とともに自分に誇りをもって生きていこうとすることを願い、教師として目の前にいる時間の限りは支えていきたい。

今回は先行事例をもとに授業を構想したこともあり、焦点化されていない部分もあったことを反省する。

最後に、自分の性のあり方について悩んでいる生徒が感想の中で、「みんなが学びを深めている姿を見て嬉しかった」と記述していたことを記す。

【引用・参考文献】

- 1) 厚生労働省, 2017年「自殺総合対策大綱～誰も自殺に追い込まれることのない社会の実現を目指して」p.27
<https://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-12200000-Sakaiengokyokushougaihokenfukushibu/0000172329.pdf>
 (情報取得日 2021年7月1日)
 - 2) 自分らしく生きるproject, 2020年「LGBTの割合は？日本と世界でグラフ化」
<https://jibun-rashiku.jp> (情報取得日2021年7月1日)
 - 3) 新潟県教職員組合 2021年 新潟総研ニュース, NO.93「SOGIハラをなくすために学校でできること」
 - 4) 認定特定非営利活動法人 ReBit, 2017年「【中学校版】多様な性って何だろう」
<https://www.youtube.com/watch?v=32bLrf0dBds>
 - 5) 大阪市民局YouTube, 2019年「【君と友だちでいたいから～知りたい, 多様な性のかたち～】ドラマ「バスケット少年の秘密」」
<https://www.youtube.com/watch?v=19zTcTl-iog>
 - 6) 認定特定非営利活動法人 ReBit, 2019「多様な性に関する授業がもたらす教育効果の調査報告」
https://rebitlgbt.org/pdf/rebit_lgbt_survey_report.pdf (情報出日 2021年7月1日)
- 内海崎貴子, 2018年「性の多様性を教材とした特別の教科道徳における人権教育～小中学校での授業実践事例から～」
 教職研究第30号(臨時増刊) p.9～p.13
- 倉敷市教育委員会, 2017年「人権教育実践資料 性の多様性を認め合う児童生徒の育成Ⅰ」
- 埼玉県教育委員会, 2020年「ひとりひとりが自分らしく生きる～多様な性が尊重され、違いを認め合える社会へ～」
- 砂川秀樹, RYOJI, 2007年『カミングアウト・レターズ』太郎次郎社エディタス
- 森山至貴, 2020年『LGBTを読みとくーティア・スタディーズ入門』ちくま新書